



子どもへの影響はあるの？

暴力は子どもにも重大な影響を及ぼします。加害者の中には、子どもに対して暴力を振るう者がいます。父親が母親に対して暴力を振るっているときに、子どもが暴力に巻き込まれケガをしたり、暴力を止めさせるために父親に立ち向かっていくこともあります。また、暴力を振るわれている母親が、子どもを虐待している場合もあります。

父親の母親に対する暴力を目撃している子どもは、他の子どもに比べて、問題行動、多動、不安、自分の殻に閉じこもる、学習困難なども見られることもあります。

DVは子どもも被害者

もし、DVについて相談されたら？

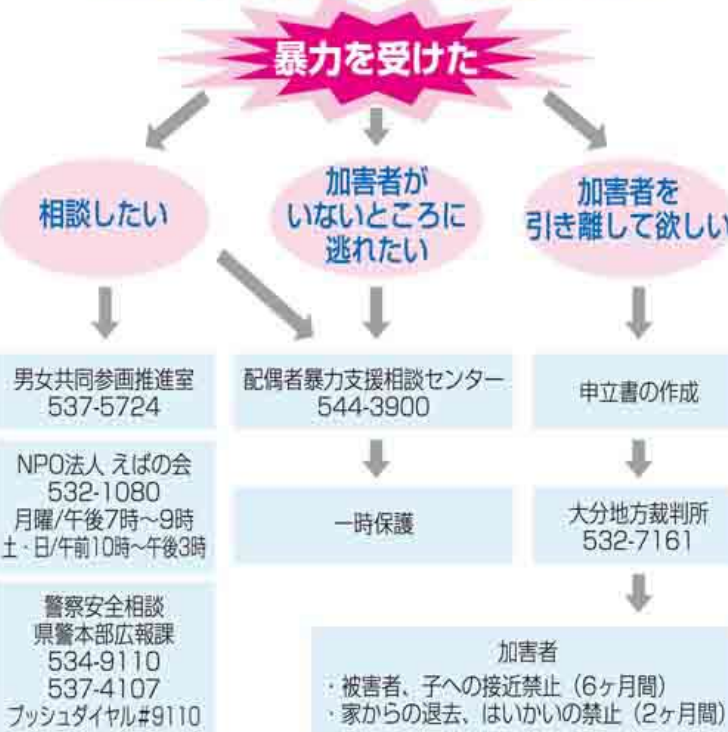
被害者の意思を尊重します。被害者が勇気を振り絞って、相談してくれたことに「話してくれてありがとう」と伝え、専門の相談員がいる相談機関を紹介したりしましょう。

被害者への何気ないひとことで、さらに被害者を傷つけてしまう二次被害を防ぐために、言っ

早く気づいて...
あなたは悪くない
いけない言葉があります。

- ～言っ
- ◆「我慢しなさい」
 - ◆「あなたにも悪いところがあったのではないの」
 - ◆「世の中にはもっと大変な状況に置かれている人がいますよ」
 - ◆「あなたは加害者に依存的だから、家に戻りたいと思うのよ」
 - ◆「なぜ別れないの」
 - ◆「あなたにとって最善の方法を教えてください」
 - ◆「私も束縛されたいわ」「愛されているのよ」
 - ◆「私が抗議してあげる」
 - ◆「なぜ早く言わないの」

.....DVを受けた時の相談は？.....



DVがあったときは

大分市では、他の機関とも連携しながらDV相談を行っています。DV相談業務を委託している「NPO法人 えばの会」もDV被害者の気持ちに寄り添った相談や市役所や警察などへの付添を行っています。

DVの被害については、「恥ずかしい」「世間体が気になる」という理由で、相談すること自体が大変であると言われてい

身の危険を感じた時は、すぐに警察へ連絡してください。

DVを知っていますか？

DVとは何ですか？

DV（ドメスティック・バイオレンス）とは、配偶者やパートナーからの暴力を言いますが、身体的暴力、精神的暴力など様々な形で被害者を傷つけ、支配しようとする行為です。また、婚姻前の恋人間で起こる暴力をデートDVと言います。

いずれも、親密な関係で起こる暴力であるため、被害は潜在しやすく周りの友人・知人・親戚などに気づかれることが少なく、被害者は長期的な暴力に苦しんでいます。



DVの種類

身体的暴力	平手で打つ・足で蹴る・げんこつで殴る・刃物などの凶器を体に突きつける・髪を引っ張る・殴る素振りや物を投げる素振りをして脅かす
精神的暴力	大声で怒鳴る・「誰のおかげで生活できているんだ」などと言う・実家や友人と付き合うのを制限したり、電話や手紙を細かくチェックしたりする・子どもに危害を加えると言って脅す
性的暴力	いやがっているのに性行為を強要する・中絶を強要する・避妊に協力しない
経済的暴力	生活費を渡さない・借金の強要・お金の使い方を細かくチェックする・「外で働くな」と言ったり、仕事を辞めさせたりする

DVの特徴は？

暴力を振るわれている被害者は、「逃げたら殺されるかもしれない」という強い恐怖感、「自分は夫の下から離れることはできない」「助けてくれる人はだれもいない」という無力感、「自分が悪いから暴力を振られるのだ」という自信のない状態から「自分は暴力を振るわれている状態から抜け出すことができない」と思い込み、逃げる気力やだれかに相談する気力も持てなくなります。

一方で、被害者の複雑な心理もあります。「暴力がない時が本当の相手なのだ」「自分の弱さを見せてくれるのは、私のことを愛しているからだ」といった思い込みを抱いている人は少なくありません。

加害者の中には、暴力を振った後に、優しく振る舞い、ケガをした被害者の手当てをしたり、謝罪して贈り物をしたりする者もいます。このような加害者の態度が「いつか相手は変わってくれるのではないか」「暴力を振るわなくなるのではないか」という期待を被害者に抱かせると言われてい

また、「夫が妻に対して暴力を振るうのは、ある程度は仕方がない」「結婚生活をうまくまとめるのは妻の役目」というような社会通念、「暴力を振るわれていることは恥ずかしい」という世間体、「女性一人若しくは、女性と子どもだけでは生活していけない」といった経済的問題を感じる人もいます。「暴力がいやならば、加害者の下から逃げればよい」と言うことは生活をすべて捨て去ることになります。それに、今まで築いた地域社会とのかかわりや人間関係も失うことになります。自己の生活基盤又は精神的基盤を喪失することに対する抵抗感は大きく、加害者との生活にとどまるという選択をする被害者もいます。

